

桜



体育大会



桜雲祭



吹奏楽部定期演奏会



共通テスト100日前集会



応援歌練習



応援歌練習



壮行会

選手入場



ASMSA 交流事業 (オンライン)



登校風景

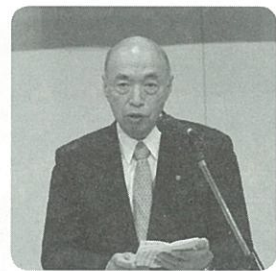


授業風景

雲

臺

第63号
 発行
 岩手県立花巻北高等学校
 桜雲同窓会事務局
 TEL 0198-23-4135 FAX 23-1354
<http://www2.iwate-ed.jp/hkn-h/>
 印刷 (株)菊忠印刷



創立九十周年を迎えて

桜雲同窓会長

佐藤 良介

桜雲同窓生の皆様には、平素より本同窓会の活動に對しまして、温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、予期せぬ新型コロナウイルスの感染拡大により、四月には緊急事態宣言が出され、母校花巻北高も一時期休校措置が取られるなど、私たちの日常生活、経済活動にも大きな影響をもたらしました。生徒達が目標にしておりました高校総体、高校野球岩手県大会等も中止となりました。

しかし、このような教育環境の中で、生徒達は明るさを失わず、前向きに勉学に部活動に取り組んでおり、先輩として頼もしく感じました。

コロナ禍で同窓会活動においても、各支部の総会がすべて中止となり、各地区で同窓生が一堂に会して親睦を深める機会が失われてしまいました。

さて、本年いよいよ本校創立九十周年の節目の年を迎えることとなりました。本校は、昭和六年四月一日花巻町外十七町村学校組合立花巻中学校として開校しました。以来九十年の長きにわたり多くの人材を輩出し、卒業生も本年三月の卒業生(桜雲85期)を加えて二万二千余名を数えるに至りました。

昨年十月には、桜雲同窓会・PT

A・教育振興会・学校教職員から成る創立九十周年記念事業協賛会を設立し、記念事業の企画を進めて来ております。

記念式典・記念講演・祝賀会は十月二十三日の開催を予定しております。記念事業としては、姉妹校ASSMS Aへの海外派遣、百年の学び事業等を計画しております。実りの多い有意義な記念事業を行い、九十年の歩みを振り返るとともに、次なる百周年に向けての大きなステップの年にしたいと思います。

同窓生の皆様には、創立九十周年記念事業に對しまして、温かいご理解のもと格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



定期総会報告

令和二年度の桜雲同窓会定期総会は、令和二年八月二日(土)十四時から、ホテルグランシエール花巻において開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため参加者を役員と各期理事に限定して開催し、講演会と懇親会は中止といたしました。約四十名という少ない参加者ではありましたが提出議題について協議しすべて承認していただきました。

- ① 令和元年度事業報告について(協議事項)
- ② 令和元年度一般会計収支決算について
- ③ 令和元年度周年事業積立金収支決算について
- ④ 令和元年度国際交流事業積立金収支決算書について
- ⑤ 令和二年度事業計画(案)について
- ⑥ 令和二年度一般会計収支予算(案)について
- ⑦ 令和二年度周年事業積立金収支予算(案)について
- ⑧ 令和二年度国際交流事業積立金収支予算(案)について

- ⑨ 役員改選について
- ⑩ 創立九十周年記念事業について

同窓会からご支援を頂いております。ASSMS A派遣事業については、令和二年三月に派遣予定だった事業は大変残念ではありましたが派遣の当日に中止を決定いたしました。また令和三年三月に予定していましたが派遣事業も中止を決定しております。コロナウイルス感染症の収束を待つて再開となります。

○支部総会開催状況
新型コロナウイルス感染症対応のため中止

令和元年度桜雲同窓会一般会計収支決算書

令和元年6月1日～令和2年5月31日

<収入の部>				単位:円
項目	予算額A	決算額B	増減B-A	備考
繰越金	420,341	420,341	0	
入会金	3,520,000	3,415,500	△104,500	6,831件×500円
会費	300,000	572,000	272,000	51期、54期、26期
寄付金	0	0	0	
雑収入	2,659	16,010	13,351	名簿、利息等
合計	4,243,000	4,423,851	180,851	
<支出の部>				
項目	予算額A	決算額B	増減A-B	備考
事務費	45,000	40,000	5,000	事務局手当
総会費	260,000	154,223	105,777	広告掲載料、講師謝礼、懇親会補助等
事業費	1,150,000	1,209,971	△59,971	卒業証書ホルダー、支部活動補助、会報印刷、会報発送用封筒等
慶弔費	150,000	166,600	△16,600	支部総会御祝、香典
会議費	220,000	136,350	83,650	役員会・支部総会議費
通信費	1,250,000	1,158,567	91,433	電話代、役員会・定期総会案内、会報送料、弔電
旅費	550,000	644,741	△94,741	支部総会出席旅費
周年事業積立拠出金	563,200	370,000	193,200	
国際交流事業積立拠出金	0	0	0	派遣事業中止
雑費	50,000	38,223	11,777	各種広告代、名刺、インク
同窓会員名簿	0	200,000	△200,000	同窓会員名簿購入費
予備費	4,800	0	4,800	
合計	4,243,000	4,118,675	124,325	

収入 支出 残高
¥4,423,851 - ¥4,118,675 = ¥305,176 残額は、次年度へ繰り越す。

令和二年度桜雲同窓会一般会計収支予算書

令和2年6月1日～令和3年5月31日

<収入の部>				単位:円
項目	前年度予算額B	本年度予算額A	増減A-B	備考
繰越金	420,341	305,176	△115,165	
入会金	3,520,000	3,400,000	△120,000	680名×10回×¥500
会費	300,000	500,000	200,000	未納の期を中心に会費納入をお願いする
寄付金	0	0	0	
雑収入	2,659	9,824	7,165	決算利息等、会員名簿販売
合計	4,243,000	4,215,000	△28,000	
<支出の部>				
項目	前年度予算額B	本年度予算額A	増減A-B	備考
事務費	45,000	45,000	0	事務局手当
総会費	260,000	100,000	△160,000	総会費用
事業費	1,150,000	1,200,000	50,000	会報印刷、支部活動補助、卒業証書ホルダー
慶弔費	150,000	150,000	0	支部総会御祝外
会議費	220,000	150,000	△70,000	役員会等会議費
通信費	1,250,000	1,200,000	△50,000	会報送料、電話代
旅費	550,000	600,000	50,000	支部総会出席旅費
周年事業積立拠出金	563,200	500,000	△63,200	周年事業積立金会計へ
国際交流事業積立拠出金	0	0	0	国際交流事業に向けての積立
雑費	50,000	50,000	0	各種広告料
同窓会員名簿	0	200,000	200,000	同窓会員名簿
予備費	4,800	20,000	15,200	
合計	4,243,000	4,215,000	△28,000	



百年生きる
君たちが
花高百年の
学びを創る

校長 川村 俊彦

本年度、赴任いたしました44期(昭和五十四年度卒業)の川村と申します。教諭として九年、副校長として二年勤務させていただきました。花高OBとしての赴任となりました。花高OBとしてこれほどの幸せはなく、人生のすべての運を使い切ったのでは思っております。

さて、本校は来年創立九十周年を迎えます。この節目は、その先にある花高百年の集大成のための一歩にしたいと考へ、「百年生きる君たちが、花高百年の学びを創る」というスローガンを掲げました。

この百年の学びには、柱を二本立てております。「学ぶ力」と「人間力」の育成です。進化論を唱えたダーウィンは「この世で生き残るのは強いものでもなく、賢いものでもない。変化できるものが唯一生き残ることができる。」と言いました。大きな変革が予測されるこれからの社会において、常に学び、自らを変化させることのできる人間が、「りっぱな公民」になると考えております。

一方、第四次産業革命とも言われAIやロボットが人間の仕事に置き

換わると考えられているような状況下では、人と人を繋げる力や人間的魅力がより強く求められ重要性が増すのではないのでしょうか。今こそ「桜雲臺精神」、「黒橋魂」を持った人間味のある花高生の時代が来たのではないかと思います。

人間力育成の重点の一つとして、すべての部活動が百周年までに一度は全国大会出場を目指すことと掲げました。現在、校長室には五本の優勝旗(剣道、弓道2、テニス、アーチェリー)に飾られております。近年にない快挙であります。すでに、テニス、弓道、文芸、写真、放送が全国への切符を手にしており、王手をかけている部もあります。他の部もこれに続けとばかりに練習に励んでおりますので、今後も優勝旗が増え、それに囲まれながら仕事ができるのではないかと期待を膨らませているところであります。

創立九十周年を迎える令和三年、同窓生の皆様にはますますのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

花巻北高等学校創立90周年記念行事
令和3年10月23日(土)
◆記念式典(花巻市文化会館)
◆記念講演会(花巻市文化会館)
講師 一般社団法人新渡戸基金 理事長 藤井 茂氏
演題 「初代校長 佐藤 昌の頃(仮題)」
◆記念祝賀会(花巻温泉 ホテル千秋閣)

令和2・3年度 桜雲同窓会役員

Table with 2 columns: 役職名 (Position) and 氏名(期) (Name/Term). Lists members like 会長 佐藤 良介(33), 副会長 酒井 孝子(33), etc.

桜雲同窓会支部長

Table with 2 columns: 支部 (Branch) and 氏名(期) (Name/Term). Lists regional leaders like 東和 藤井 公博(23), 石鳥谷 高橋 康郎(29), etc.

令和元年度桜雲同窓会国際交流事業積立金収支決算書

令和元年6月1日～令和2年5月31日 単位:円

Financial statement table for FY2019. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 予算額 A, 決算額 B, and 増減 A-B.

収入 支出 残高
¥2,501,547 - ¥0 = ¥2,501,547 残額は、次年度へ繰り越す。

令和2年度桜雲同窓会国際交流事業積立金収支予算書

令和2年6月1日～令和3年5月31日 単位:円

Financial statement table for FY2020. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 前年度予算額 B, 本年度予算額 A, and 増減 A-B.

コロナ禍の花巻北高

校長

川村俊彦

花高の不易の象徴として応援歌練習があげられると思います。中学生 一日体験入学に参加した保護者の中には、応援歌練習はさせたくないという方もいらっしやいました。「いまどきこんな事と、びつくりされたのかも知れません。しかし私は、生徒達に今後百年残したい伝統だと言っております。時代は今、何の役に立つの」という功利的な風潮にあるのかも知れません。しかし一方で、一見価値が見出せないようなものから、価値を生み出す人材を熱望してもいます。

一見「何の役に立つの」と疑問を投げかけられるような応援歌練習が、人生においてかけがえのない価値を生むものであることを心に刻み、意味のないように思えるものに意味を見出せる花高生こそ時代が求める人材だと考えます。

そんな花高生の精神的支柱を構築する応援歌練習を始め、夜間歩行、野球応援など伝統的な活動がコロナ禍において制限される状況となりました。「できる限り教育の質は下げない」という方針のもと、夜間歩行に関しては、代替えの昼間歩行を実施しました。三年生全員で花高のルート旧桜雲臺を眺めながら、まことの坂、黒橋を通って共通テスト会場となる富士大学まで歩行しました。さらに三年生は富士大から、花巻球場に向かい、野球部と全国・県大会に出場する文化部の壮行式、野球応援に代わ

る二・三年生VS一年生の応援合戦をすることといたしました。花高生としての実感を味わい、伝統を継承する場としての応援合戦でした。梅雨空を吹き飛ばす花高生の声の花巻球場に響き渡りました。「いまどきこんなことができる花高生を誇らしく涙が出る思いでした。天気が危うい状況だったため、一・二年生は授業コマを急遽カットして野球場に向かわせましたが、コロナ禍にある花高生にとっては、100時間の授業でも太刀打ちできない教育効果があったものと確信しております。

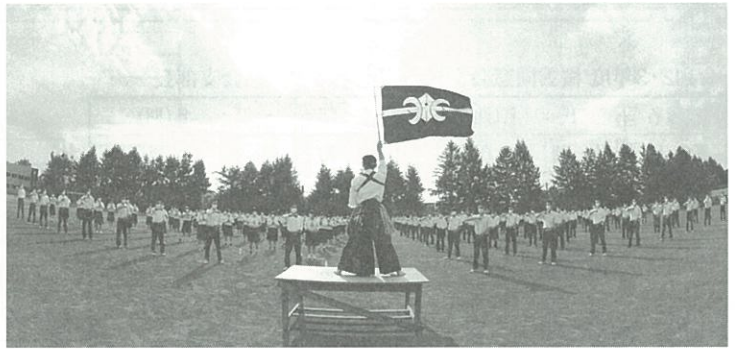
コロナ禍は予断を許さない状況が続いておりますが、このような状況であればこそ先輩方が築かれた伝統、そして花高のDNAを絶やさぬよう努力してまいりたいと思っております。今後とも花高の応援をよろしく願っています。



応援歌練習



応援歌練習



グラウンドでの応援歌練習



壮行式・スタンドからエールを送る



壮行式・全校生徒が整列



花巻球場での壮行式

令和2年度「姉妹校ASMSA派遣事業」報告

平成 29 年度に始まった「姉妹校 ASMSA 派遣事業」は、今年度で4年目。今年度の派遣事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。その後、ASMSA から本校にオンラインでの交流事業をしてみませんかとの打診がありました。花巻市国際交流室の方々と連携して、11月4日に第1回目の交流事業が実現しました。実施日時、参加生徒数は以下の通りです。

- 第1回 令和2年 11月 14日(水) 参加生徒 8名
- 第2回 令和3年 1月 21日(木) 参加生徒 20名
- 第3回 令和3年 2月 18日(木) 参加生徒 17名



ASMSA 派遣事業の目的

本校に在籍する生徒を姉妹校である米国アーカンソー州 ASMSA に派遣し、授業参加・実習体験・文化交流などを行い、グローバルリテラシーを高めるとともに、本校生徒への環流を行う。



黒橋を渡る



一路、花巻球場へ



富士大前にて



創立45周年の校舎移転

菊池 俊行(桜雲 43 期)

株式会社講談社取締役

その日、1年E組の私たちは、てんでにバカ話をしながら、下幅から本館の地へ向かって歩いていました。手には、人体の骨格模型とか、得体の知れないホルマリン漬けが入った瓶とかを、一人一人抱えていました。桜雲台の旧校舎から新校舎(いまの校舎)への引越の日です。

大半の荷物や什器は業者のトラックに載せたのでしょけど、生物学教室などにあった壊れ物は生徒たちが徒歩で運んだのです。

この日は、昭和 52 年の 2 月 14 日。雪が積もり、さらに小雪がちらついていました。滑って転んで大事な標本を壊してしまった生徒はいなかったのでしょうか。記憶にないからそういうことはなかったんでしょうね。

前年の 4 月、下幅の高台・桜雲台にある北高に、私たちは入学しました。入学式とは別に入団式というのがあって、大勢の先輩の前で自己紹介をします。数百人の先輩たちが、いま風に言えば、「いいね」の意を込めて足で床を踏みならし、古い体育館がグラグラと揺れるように感じました。

翌日から応援歌練習。昼休みになると歌詞指導と称して応援団幹部が教

室にやってきます。初日は勝手がわからず弁当をひっくり返すやつもいたけれど、翌日からは、幹部室の建付の悪い引き戸をバタンと開ける音や、木の廊下をバタバタと駆けてくる足音で、心の準備をするようになりました。

その廊下は黒光りしていました。掃除の時間になると油の染みこんだモップで木の床を拭きます。その繰り返しで毎日、木の黒さが増していくように感じられました。

私たちの高校生活は、桜雲台の名の通り桜の花に包まれた木造の三角屋根を仰ぎ見て始まり、揺れる体育館や、細い道を通って谷を越える校庭や、何十年も多くの先輩たちが油で磨き込んだ木の床とともにありました。

旧校舎の最終日、私たちは、教室の黒板に「さらば」と大書したり、世界史の年号が刻まれた(1)木の机を持って帰ろうと試みたり、それぞれの形で旧校舎に別れを告げていました。「この校舎、離れだくねな」と誰かが呟き、誰かがわめいていました。移転反対運動しようとしたやつもいましたが、もう新しい校舎はできあがっていました。

移転した「新しい桜雲の地」には、それまでとは比べものにならないほど広い校庭がありました。野球場とサッカー場と陸上トラックを別々にとれるなんて夢のよう、と若い高校生は変わり身も早く、広々とした校庭と真新しい校舎でワイワイガヤガヤと賑やかに 2 年間を過ごしました。

あれからもうじき 45 年ですか。すでに旧校舎と並ぶ多くの北高生が新校舎で青春の時を刻んでいるのですね。もう新校舎とは呼ばないのですね。

私たちは、旧校舎を知る最後の代で、いまの校舎の最初の代ということになります。創立 90 周年を迎えようとしている花巻北高の歴史の、ちょうど中間点にあたる校舎移転を振り返り、感慨を新たにしています。

表彰

令和二年度春の叙勲・褒章

山口 紀士【23期】

瑞宝双光章 地方自治功勞
(元花巻市助役)

滝浦 輝男【27期】

黄綬褒章
業務精勵(染色仕上工・卓越技能)
(現(株)染屋たきくら勤務)

坂本 均【29期】

瑞宝双光章 教育功勞
(元公立小学校長)

松川 邦夫【31期】

瑞宝双光章 教育功勞
(元公立小学校長)

令和二年度秋の叙勲・褒章

佐々木 稔【30期】

瑞宝双光章 地方自治功勞
(元花巻市副市長)

佐藤 一彦【29期】

旭日单光章 中小企業振興功勞
(現(株)金石電機製作所社長)

只野 晴重【29期】

藍綬褒章 更生保護功績
(現保護司)

令和二年度

花巻市市勢功勞者表彰

藤井 公博【23期】

民生安定功勞
(現花巻市身体障害者福祉協会会長)

内外で活躍する

O・B・O・G 紹介

震災から十年 伝え続けた安否情報



I・B・C岩手放送アナウンサー

神山 浩樹 (50期)

二〇二二年三月十一日午後。私はラジオの生放送中だった。二時四十六分。緊急地震速報、突き上げる縦揺れと激しい横揺れ。盛岡は震度五強。総毛立ちながら私は「身の安全を図ってください」と呼びかけた。

揺れが収まり三時にスタッフと本社を出発、大津波予想の沿岸南部へ車を走らせた。流された民家が行く手を塞ぐ国道45号。闇に覆われた大船渡の高台の住宅地ではカーラジオに耳を傾ける家族の姿。被害の全容が見えない中、本社から「陸前高田だけ情報が無い。向かってくれ」と。情報が無いことが情報だった。

午前一時、市街地を望む丘の上の介護老人保健施設へ。真っ暗な三階建ての一階では、入所者、職員、近隣住民約三六〇人が、わずかな非常食で救援を待っていた。そして皆、口々に「街が無くなった」と。夜が明けた。住宅街も商店街も消えていた。眼下に広がるのは泥の海。病院、ホテルなど鉄筋がわずかに残っているぐらい。泥の中には屋根や柱、壁が無数に。私は氷のように冷たいマイクを手に惨状を伝え続けた。

あの時、I・B・Cラジオの役割は「命の伝言板」だった。発災直後から一〇八時間、休むことなく放送。十一日の夜十一時、盛岡のスタジオでは釜石港湾事務所と繋がり、職員が避難している市民四十八人の名前を読み上げた。翌十二日は個人の無事を伝えるメールも紹介、避難所で書き写した名簿を本社まで届ける方もいた。高田では、私のラジオレポートを聴いた方々がカレンダーの裏などに自分の名や避難所を記し「家族や仲間に伝えて下さい」と持参、私の手を握り涙ながらに託した。読み切れない分はスタッフが持ち帰り盛岡から放送。全アナウンサーで最終的に二万三千人余りの情報を読み上げた。被災地では多くの方から「夜通しラジオを聴き支えになった」という声を頂いた。

あれから十年。リスナーと笑顔を共有できる日常に感謝し、今日もマイクに向かって。災害は繰り返し襲うことを肝に銘じながら…。

一九六七年花巻市生まれ。九〇年四月I・B・C入社。二〇〇〇年に国家資格「気象予報士」取得(県内マスコット)。担当番組「わが町(月一回)他」。

花巻北高特別講演会 令和2年10月1日(木)

次世代のITインフラを創る

～スタートアップ起業家という生き方～



講師

中村 晃一氏 (桜雲 67期)

Idein 株式会社 代表取締役社長

略歴: 2003年、花巻北高等学校卒業。2010年、東京大学理学部情報科学科卒業。2015年、東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻後期博士課程を中退し、Idein(イデイン)株式会社を設立、代表取締役就任。エッジコンピューティング分野のデファクトプラットフォームを目指しプロダクト・ビジネス開発を行っている。

今年度の文化講演会は、桜雲同窓生である中村晃一氏をお招きし講話いただきました。高校時代より科学者を志し、理系学問の勉強に邁進したことや、大学時代には紆余曲折を経て、取り組んだ研究が評価され米国の研究所での滞在研究に招待された話など、生徒たちにとって夢の広がる内容でお話しいただきました。生徒たちの感想にあるように、今回の講演を通じて、自分の未来を自ら切り開くため、リスクや失敗を恐れず挑戦してみる、たくさん失敗しても良いことなど、生徒だけでなく職員にとっても、勇気と希望

をもらい、そして自分の生き方や花巻の未来について再考させられる貴重な時間となりました。

生徒感想:

・今回の講演を聞いて、何かを始めるときには必ずリスクがあり、時にはそのリスクを負ってでも行動を起こすことが大切なのだと分かりました。リスクを負うことはそう簡単にできることではないし、勇気が必要ですが、それを乗り越え成功したとき、大きな成長と変化が得られると思いました。私はよく安全な道を選ぶことが多いけれど、少しずつでも色々なことにチャレンジしていきたいと感じました。(1年生)

・なにごとにも挑戦することが大切だと学びました。新しいことに挑戦するリスクを負える準備を日頃からしているから中村さんは成功できたと思うので自分自身もチャンスが来たらそれに対応する準備を日頃から整えて生活していきたいと思いました。また、好きなことをとことん突き詰めるという姿勢も素敵だと思いました。好きなことをして他を疎かにするのは良いことではないけれど、自分の好きなことを見つけてそれを仕事にできているのはやはり、突き詰めたからこそだと感じました。(2年生)

・2つ心に残った言葉があった。「The best way to predict the future is to create it」未来はやってくるものじゃない、自分で作るものなのだった。自分自身で未来を切り拓くことが、未来に挑戦することが大切だと思った。「スタートアップの立ち上げというのは、崖から身を投げて落下している最中に飛行機を作るということだ。」ととても難しいことで挑戦しても失敗する人が何人もいる中で、飛行機を組み立てられた人だけが遥かな大空へ飛び立てる。自分もそんな飛び立てる人間になりたいと思った。自分が知らない世界を知ることができたよい経験になった。(2年生)

創立90周年事業 百年の学び講演会



第1回 令和2年9月16日(水)

演題
「半ケツとゴミ拾い」
～一歩を踏み出す勇氣～

講師
荒川 祐二氏

1986年3月25日生まれ 作家(小説家)

第1回の90周年記念講演では、作家荒川祐二氏をお招きし、東京新宿駅東口でのゴミ拾い活動を機に人生が変わったという自らの経験を基に「一歩を踏み出す勇氣」の大切さを学んだ。大阪市内の高校を卒業して上智大学に入学した荒川氏は「何のために生きているか分からない。大嫌いな自分を変えたい」と口にしながも行動しない自分に兄から「おまえは口ばかり。本気で変えたいなら行動しろ」と言われ、20歳の時に一念発起。「一緒に掃除してくれる人募集」と書いた看板を背負い、毎朝6時から2時間の清掃活動を1人で始めた。最初は暴力団員やホストらに「偽善者」とのしられてわざとゴミを捨てられたり、カラスの死骸を投げつけられたりしたが、1ヶ月近く続けるとホームレスたちが協力。新聞で取り上げられたことでさらに賛同者が増え、半年後の5月3日には全国規模のイベントに発展。その後、世界の15万人まで広がった。「俺は成功したんじゃない。ただ成長しただけ。」とも話し、「人生を変えるのに特別な才能や能力はいらない。まずは自分を信

じて今できる一歩を踏み出すこと。その勇氣と自分を諦めない覚悟が大切」と訴えた。

生徒の感想

・講演会で「変わると言った時点ではまだ変わっていないのに変わった気になってしまっている」という荒川さんの言葉を聞いた時とてもハッとさせられました。思えば、明日から頑張ろうと思ってできていないこと、朝の早起きやご飯後の仮眠など、やめよう、変わろうと思っててもやっぱり変われなくて落ち込むことがよくあることに気づきました。今日の講演会を聞いて、一歩を踏み出したいと思った心を大切に、新しい自分に会えるよう頑張っていきたいと思います。

・今まで自分は荒川さんのお兄さんの言葉どおりやったつもりになってるだけだと気づかされた。自分に自信がなくて他人にバカにされるのが嫌だったから途中で投げ出したのだと言うこともわかった。自分は才能がないのではない、自分より上手い人がどれだけいるんだろうと考えてしまっていたが、自分に自信持って、他人は他人、自分の足を引っ張るだけだと割り切って行動し続けることが出来る、勇氣と根性をもらった。

・印象に残っていることは、講演中に何度も聞いた「人はやれないんじゃない。やっていないんだ。」という言葉です。荒川さんはゴミ拾いをする事で注目を集め、最終的には15万人の人が参加するゴミ拾いにまで発展しました。誰でもできることでもこんなに大きなものになることに驚きました。僕は何か物事に取り組むときには自信がないことが多々あるのですが、荒川さんの話を聞いて、絶対にやれると自分を信じて取り組んでいきます。



第2回 令和2年11月25日(水)

講師
佐々木 陽平氏

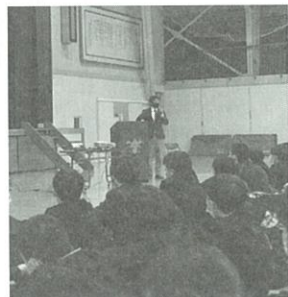
静岡聖光学院高等学校
教諭

略歴：北海道出身。北海道教育大を卒業後、札幌南陵高ラグビー部部長・監督、羽幌高監督、札幌厚別高部長を務めた。2015年に静岡聖光学院に赴任し、ラグビー部のヘッドコーチとなり、2016年からはラグビー部の監督に就任。2019年にはチームを全国大会出場に導いた。セブンスユースアカデミーコーチ、北海道ブロックユースコーチ、高校日本代表S&C兼テクニカルコーチ、U20日本代表アナリストを歴任。

概要

同校の部活動は、週3回、夏季は90分間、冬季は60分間と決められている。ラグビー部では、練習の初めには、必ず整理・整頓・掃除の「3S活動」に取り組んでいる。

練習中は、短時間で効率的な練習が行えるよう、様々な工夫を凝らしている。その中には、水分補給をする際も全力疾走、試合形式中心の練習、生徒1人1人が自らの課題を見つけてそれに取り組む5分間の「主体練」などが盛り込まれている。普段の活動から、生徒の自主性や主体性を重視し、生徒同士で意見を交わしながら課題を解決することが出来るようにしている。そのことが、試合中、冷静に分析や修正を行える選手の育成につながっていると感じている。練習では100%やりきることが重要。皆さんも見る人が感動するような取り組みをして欲しい。



第3回 令和3年1月13日(水)

講師
佐々木 千鶴氏(77期)

公益財団法人 全日本柔道連盟
国際課

略歴：東和町出身。本校を卒業後、筑波大学体育専門学群、同大学院人間総合化学研究科に進学。中学1年生から柔道を始め、高校時代はインターハイにも出場。大学でも柔道部に所属し、大学院時代には指導者として中国やエジプトに派遣された。現在、全日本柔道連盟国際課の職員として、柔道の普及や振興、柔道を通じた国際交流などに携わっている。

両立に努めていた。柔道の他に、社会貢献や国際的なことにも興味を持つようになっていた。高校時代は、それらをそれぞれ全く違うものとして捉えていた。

高校2年と大学3年の時に膝のけがで手術し、柔道を辞めようかと思った時期もあった。しかし、回復するまでの期間に自分と向き合い、本当にやりたいことを再確認できた。大学の柔道部は国際チームが頻りに出入りする環境にあり、海外チームの受け入れの仕事をしていった。また、Sport For Tomorrow(日本政府推進のスポーツを通じた国際貢献事業)のプログラムに参加、ブラジルの貧困地域で子ども達へ柔道指導を行ったりもしていた。そうする中で、高校時代に興味を抱いていた3つことが1つにつながっていった。花北は学びの場、努力の仕方や夢の叶え方を学び、皆さんの可能性を増やす土台を築いて欲しい。将来の進路選択をする際、自分なりの価値観で選択し、その選択が正しかったと思えるようにして欲しい。



概要

高校時代は、東和町から毎日自転車通っていた。学習時間を少しでも確保するため、自転車を漕ぎながら英単語を覚えるなどして、部活動と学習の

【女子シングルス】
5 回戦 藤部千聖 0-3 一関二 ※ベスト16
本間彩希 予選リノ敗退
芳賀敦子 予選リノ敗退
小菅由奈 予選リノ敗退

柔道
第53回岩手県高等学校1・2年体重別選手権大会
1年男子個人試合 60kg級 菅原車勢 第3位
2年女子個人試合 63kg級 澤田実穂 第3位
第65回岩手県高等学校新人柔道大会兼全国高等学校柔道選手権大会岩手県大会第一次予選会
【男子団体】
1 回戦 ○花巻北2-1花巻東×
準々決勝 ×花巻北0-1盛岡一
※ベスト8 選手権大会シード権獲得
【男子個人】
60kg級 菅原車勢 ※ベスト8 ※選手権大会出場権獲得

【女子個人】
52kg級 小笠原雅姫 ※ベスト8
57kg級 吉田知世 ※ベスト8
63kg級 澤田実穂 第3位 ※選手権大会出場権獲得
第43回全国高等学校柔道選手権大会岩手県大会
【女子団体】
1 回戦 ○花巻北3-0江南義塾×
準々決勝 ×花巻北1-2盛岡一 ※ベスト8
【男子個人】 60kg級 菅原車勢 ※ベスト8
【女子個人】 63kg級 澤田実穂 第3位

剣道
第63回岩手県高等学校新人剣道大会
【男子団体】 ※優勝(4年ぶり3度目)
2 回戦 ○花巻北 5-0 盛岡市立×
3 回戦 ○花巻北 4-0 黒沢尻北×
準決勝 ○花巻北 1-1 花巻南×
※代表決定戦勝ち
決勝 ○花巻北 2-1 福岡×
出場権獲得(2人)

出場権獲得(2人)
1月30日(土)全国選抜予選会(岩手県営武道館)
2月13日(土)東北選抜大会(青森市)
【男子個人】 ※優勝 阿部玲希
2 回戦 ○阿部 メメー 西田(盛岡北)×
3 回戦 ○阿部 メメー 盛合(宮古)×
4 回戦 ○阿部 コココ 皆川(盛岡南)×
準決勝 ○阿部 メメー 佐々木(盛岡市立)×
決勝 ○阿部 コココ 村上(盛岡)×
【女子団体】 ※ベスト8
2 回戦 ○花巻北 5-0 葛巻×
3 回戦 ×花巻北 0-3 盛岡白百合学園○
出場権獲得

1月30日(土)全国選抜予選会(岩手県営武道館)
【女子個人】 潮川里海(2年) 古瀬(盛岡四)○
1 回戦 ×潮川 リメ 古瀬(盛岡四)○
テニス
令和2年度県民テニス大会 少年の部
【男子シングルス】
古屋敷泰一 ベスト16
大沼航大 ベスト16
【女子シングルス】
藤井菜名 ベスト4
川村虹奈 ベスト8
吉田ひなた ベスト8
第37回岩手県高等学校1年生テニス大会
【男子シングルス】
古屋敷泰一 ベスト8
【女子シングルス】
藤井菜名 第3位
チャレンジャーダブルス2020
【男子】
小田翔大 大沼航大 第4位
古屋敷泰一 高橋孝彰 ベスト16
【女子】
小寺杏菜 藤井菜名 第2位
佐久間柚希 三嶋里奈 第4位
川村虹奈 高橋柚衣 ベスト8
令和2年度NHK杯ジュニアテニス(兼JOC岩手県予選)
【男子シングルス】
小田翔大 第5位
大沼航大 ベスト16
古屋敷泰一 ベスト24
【女子シングルス】
藤井菜名 ベスト4
佐久間柚希 ベスト12
小寺杏菜 ベスト16
三嶋里奈 ベスト24
吉田ひなた ベスト24
令和2年度第52回岩手県高等学校新人テニス大会兼43回全国選抜高校テニス大会岩手県大会

【男子団体】
2 回戦 花巻北 3-2 盛岡工業
準決勝 花巻北 3-2 盛岡四
決勝 花巻北 0-3 岩手
第2代表決定戦
花巻北 3-2 盛岡一
(准優勝・東北選抜第2代表)

【女子団体】
2 回戦 花巻北 5-0 盛岡北
準決勝 花巻北 3-0 盛岡三
決勝 花巻北 3-1 盛岡四
【男子個人シングルス】
小田翔大 第4位
古屋敷泰一 ベスト16
大沼航大 ベスト32

高橋孝彰 ベスト32
【男子個人ダブルス】
小田翔大 大沼航大 ベスト8
【女子個人シングルス】
藤井菜名 第2位
小寺杏菜 第4位
佐久間柚希 ベスト8
三嶋里奈 ベスト16
川村虹奈 ベスト16
吉田ひなた ベスト32
高橋柚衣 ベスト32
【男子個人ダブルス】
小寺杏菜 藤井菜名 ベスト4
佐久間柚希 三嶋里奈 ベスト8
令和2年度第41回東北選抜高等学校テニス選手権大会兼第43回全国選抜高校テニス大会東北地区大会
【男子団体戦】
1 回戦 花巻北 0-5 仙台育英(宮城第2代表)
【順位決定戦】
1 回戦 花巻北 3-2 山形南(山形第2代表)
2 回戦 花巻北 2-3 東陵(宮城第2代表)
【女子団体戦】
1 回戦 花巻北 3-2 日大東北(福島第2代表)
2 回戦 花巻北 2-3 寒河江(山形第2代表)
【順位決定戦】
1 回戦 花巻北 5-0 五所川原(青森第2代表)
2 回戦 花巻北 3-0 秋田聖霊短大付属
(秋田第2代表)
3 回戦 花巻北 3-1 磐城(福島第2代表)
4 回戦 花巻北 3-0 東陵(宮城第2代表)
最終順位 第3位 全国選抜出場権獲得
東北春季ジュニアテニス選手権岩手県予選
【男子U18シングルス】
小田翔大 第3位(東北大会出場権獲得)
古屋敷泰一 ベスト12
大沼航大 ベスト16
【女子U18シングルス】
藤井菜名 第2位(東北大会出場権獲得)
小寺杏菜 第4位(東北大会出場権獲得)
佐久間柚希 第5位
三嶋里奈 ベスト12
川村虹奈 ベスト16
東北インドアダブルス岩手県予選会
【男子】
小田翔大 吉田拓貴(盛岡四)
第2位(東北大会出場権獲得)
大沼航大 古屋敷泰一 ベスト16
【女子】
佐久間柚希 三嶋里奈 第4位
小寺杏菜 藤井菜名 第6位
川村虹奈 吉田ひなた ベスト16
岩手県選抜室内テニス選手権大会
【一般男子シングルス】
小田翔大 ベスト16
【一般男子ダブルス】

【男子個人ダブルス】
小田翔大 第4位
古屋敷泰一 ベスト16
大沼航大 ベスト32

小田翔大 吉田拓貴(盛岡四) 第4位
アーチery
第33回岩手県高等学校新人大会
【男子団体】 第2位(照井小林・菊池)
【男子個人】 第4位 及川夏歩
【女子個人】 第6位 加藤奈々子
第33回岩手県高等学校校内大会
【男子団体】 第2位 (梅木 佐藤・高橋・茨島)
【女子個人】 第3位 及川夏歩
第6位 菊池紗菜
第2位 佐藤凛宮
【男子個人】 第3位 梅木万輝
第3位 佐藤凛宮

吹奏楽
岩手県高校吹奏楽大会2020
クラスA銀賞
全日本アンサンブルコンテスト第41回岩手県大会
クラリネット五重奏 金賞
クラリネット五重奏 金賞
打楽器四重奏 金賞
サクソフォン四重奏 銅賞

文芸
第43回岩手県高等学校総合文化祭文芸部門
岩手県高校生文芸コンクール
【文芸部誌部門】
優秀賞「花北文学63」
優秀賞 佐藤蒼
優良賞 竹原夏希
入選 八重樫裕
【随筆部門】
優秀賞 佐藤蒼
優良賞 佐藤蒼
【小説部門】
優良賞 佐藤蒼
優良賞 佐藤蒼
【詩部門】
優良賞 八重樫裕
優良賞 八重樫裕
【俳句部門】
優良賞 八重樫裕
文芸部門 派遣生徒
第45回全国高等学校総合文化祭和歌山大会
文芸部門 八重樫裕
第35回全国高等学校文芸コンクール
【文芸部誌部門】
優良賞「花北文学63」
第1回富士正晴全国高校生文学賞
奨励賞 高橋明日香

合唱
岩手県合唱小アンサンブルコンテスト
美術
第43回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展・第58回県下高校美術展

【絵画部門】
入選 鎌田真緒 「手に負えない」
入選 小林由依 「明眼」
入選 藤原 陽 「典型的な自撮り」
入選 高橋孝輔 「STOP! RACISM! 人種差別を止めよう」
第21回高校生国際美術展
【美術の部】
佳作 熊谷 歩 「Strength」
写真
令和2年度第41回岩手県高等学校総合文化祭写真部門
第39回岩手県高校写真展
最優秀賞(全国推薦) 高橋孝里 「華宵の夢」
最優秀賞 大家虹輝 「じかほ」
優秀賞 高橋孝里 「梓には取まらぬ」
優良賞 田村菜々花 「time reverse」
優良賞 大家虹輝 「興味津々」
令和2年度第11回夏季写真コンテスト
特賞 高橋孝里 「農作業後」
特賞 小田島理月 「郷愁」
入賞 小田島理月 「図書室の彼女」
佳作 大和朱莉 「ひたまりの下で」
佳作 小田島ウララ 「14歳」
佳作 田村菜々花 「視線」
佳作 佐藤静香 「存在感」
令和2年度スライドフォトコンテスト
入選 宮澤和香葉 「時間は神々」
入選 高橋孝里 「思郷」
入選 高橋孝里 「秋の契り」
佳作 大和朱莉 「首飾を描け!」
佳作 菊池芽衣 「独り」
佳作 川村日佐 「秋に想う」
佳作 大和朱莉 「Innocent」
2020こころ総文第44回全国高等学校総合文化祭
写真部門 出品
小田島ウララ 「交響曲第六番」
小田島理月 「旧盆の時」

英語
令和2年度岩手県各(各)UPO高校生スピーチ大会
令和2年度岩手県高等学校スピーチコンテスト
参加

放送
岩手県高等学校総合文化祭放送部門
【朗読部門】
最優秀賞 谷藤白香
優秀賞 渡邊愛香
【ビデオメッセージ部門】
優秀賞「得々幸せ」
【テレビキャンペーン部門】
優良賞「は」

弓道部

さらに前へ

二年 千葉 凛奈

弓道部女子は県選抜大会で準優勝となり、東北選抜への出場権を得ると同時に、目指していた全国選抜への切符を逃しました。悔し涙を流しましたが、東北の舞台で活躍しリベンジを果たすため練習に打ち込み弱点を克服し、東北選抜に臨みました。

調子が振るわず予選通過順位は最下位でした。決勝トーナメント戦では一回戦で予選一位のチームと対戦し「ここまでかもしれない」と



弱気になりましたが、信頼する仲間との存在と、歴代の先輩方の言葉が心の支えとなり、落ち着いて戦い抜き優勝を掴み取ることができました。

このような成績を残す事ができたのは、日頃活動を支えて下さっている先生方やコーチを始め、卒業後も私たちが気に掛けて下さっている先輩方がいたからです。皆様への感謝の気持ちを胸に、今後も全国制覇へ向けて一層精進して参ります。



硬式テニス部

東北大会に出場して

二年 小寺 杏菜

私たちテニス部は今年度、県新人大会の団体戦で女子が二連覇、男子が準優勝し、創部以来初となる東北選抜大会へのアベック出場を果たしました。東北大会では、出

場にあたりテニス部OB・OGの皆様からご寄贈いただいた『不撓不屈』の部旗を掲げ、まさに花北テニス部が三入賞、全国選抜大会の出場権を獲得しました。応援してくださった全ての方への感謝の気持ちを忘れず、全国大会では博多の森のテニスコートに再び『不撓不屈』の部旗を掲げ、花北テニス部代表として全力で頑張ります。



出場こそ叶いませんでしたが、男女とも大会最終日まで勝ち残り、女子テニス部が三位入賞、全国選抜大会の出場権を獲得しました。応援してくださった全ての方への感謝の気持ちを忘れず、全国大会では博多の森のテニスコートに再び『不撓不屈』の部旗を掲げ、花北テニス部代表として全力で頑張ります。

写真部



交響曲第六番

三年 小田島 ナウラ

この作品は、夕暮れ時にバイオリンの練習をしていた妹を外へ連れ出して撮ったものです。完全なシルエットではなく、なんとなく表情が見えるようにと考えて撮りました。タイトルは「田園」の副題で有名なベートーヴェンの曲です。無人かつ広大な田に囲まれて奏でる音がどんなものか、想像していただけたら幸いです。

写真の面白さ

三年 小田島 理月

昨年度の岩手県高等学校総合文化祭で全国推薦をいただいたのは、「旧盆の時」という作品です。お盆に親戚の家に行った際、側転をし





逆境
 第八十八・八十九代応援団長
 三年 柳原 尚

押忍。今年度は、新型コロナウイルスという災禍に見舞われましたが、私たち応援団の活動を無事に終わらせることができました。先生方や保護者の皆様、地域の方々の助力があつてのことです。お陰様で、新聞やテレビなどにも多数取り上げていただきました。辛い二年間でしたが、最後まで団長を全うできました。

て遊んでいたいところを撮影しました。理想のタイミングでシャッターを切ることができたときは、とても手ごたえを感じたことを覚えていませす。写真の面白さを感じた瞬間でした。

応援団

令和2年度入試(令和2年3月卒業生)の進路状況

令和元年度卒業生が挑んだ「大学入試センター試験」は、翌年から「大学入学共通テスト」に変更されることを受け、最終年度の大学入学者選抜となりました。本校は、卒業生 236 名のほぼ 100%が上級学校を目標に勉学に励み、国公立大学 4 年制大学に合格した者は実数で 115 名(45%)となりました。岩手県全体でも国公立大学合格者が減少の一途をたどる中、東北大学合格者 12 名、医学部医学科合格者 4 名をはじめとし、生徒はよく健闘してくれました。

令和2年度は、思考力を問われる問題や科目配点など大きく変更される共通テスト元年となることに加え、昨年から世界中に蔓延している新型コロナウイルス感染症の影響を直撃する学年となります。この苦境の中、花高は令和3年度 90 周年を迎えるにあたり「百年生きる君たちが、花高百年の学びを創る」をスローガンに、学ぶ力、人間力の育成のため様々な改革を行い、100 周年に向け伝統を継承しつつ、未来に躍進していく取り組みを行っております。今後とも同窓会の皆様には、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

(進路指導主事 八尾 晃一)

***** 令和2年度入試(令和2年3月卒業生)合格状況 *****

(1) 国立大学

学校名	R2年度	
	現役	過卒
帯広畜産大	2	
北見工大	1	(1)
北教大函館校	2	
室蘭工大	1	
弘前大	6	(1)
岩手大	25	(2)
東北大	12	(2)
宮城教育大	4	
秋田大	1	
山形大	7	
福島大	9	
茨城大	1	(1)
宇都宮大	2	
電気通信大	1	
静岡大		(1)
新潟大		(1)
富山大	1	
金沢大	1	
信州大	2	
琉球大	1	
小計	79	9

(2) 公立大学

学校名	R2年度	
	現役	過卒
ほこだて未来大	1	
釧路公立大	10	(1)
青森県立保健大	1	
青森公立大	4	
岩手県立大	13	(1)
宮城大	1	
秋田県立大	1	
国際教養大	1	

山形県米沢養大	(1)
前橋工科大	(1)
高崎経大	1
埼玉大県立大	1
東京都立大	1 (2)
都留文科大	2 (1)
新潟県立大	1
名桜大	1
富山県立大	(1)
愛知県立芸大	1
小計	40 8
国公立大現役総数	119
国公立大現役実数	115

(3) 私立大学

学校名	R2年度	
	現役	過卒
札幌大	1	
北海道科学大	1	
北海道情報大	1	
酪農学園大	2	
青森大	2	
八戸学院大	1	
八戸工業大	2	
青森中央学院大	3	
岩手医大	17	(1)
富士大	5	
盛岡大	55	(1)
岩手保健医療大	7	
石巻専修大	3	
仙台大	7	
東北学院大	39	(3)
東北工大	9	(2)
東北生活文化大	1	
東北福祉大	14	

現役合格者(過卒合格者数)

東北医薬大	2	(2)
宮城学院女子大	2	
東北文化学園大	3	
尚綱学院大	7	
ノースアジア大	1	
東北芸術工大	4	
常磐大	2	
つくば国際大	3	
流通経済大	1	
国際医療福祉大	4	
白鷲大	1	
作新学院大	1	
群馬パース大	2	
城西大		(1)
江戸川大	1	
東京国際大	1	
文教大		(1)
尚美学園大	1	
千葉工大	5	(3)
千葉商大	1	
中央学院大	1	
秀明大	1	
麗澤大	2	
青山学院大		(1)
桜美林大	1	
大妻女子大	2	
慶応大	2	
工学院大	1	
国学院大	1	(4)
国士館大	1	
駒澤大		(2)
芝浦工大	3	(3)
女子美大	2	
拓殖大	1	
大東文化大	1	

玉川大	1	
帝京大	3	
東海大	6	(1)
東京家政大	2	
東京経大	1	
東京工科大	2	(1)
東京造形大	2	
東京農大	2	
東京理大	1	(1)
東洋大		(7)
日本大	3	(1)
東京都大		(1)
明治大	1	(1)
明治学院大	2	
立教大	1	(1)
東京医療保健大	2	
神奈川大	3	
神奈川工科大	2	
鎌倉女子大	1	
関東学院大	2	
相模女子大	1	
松蔭大	2	
敬和学園大	1	
新潟食料農業大	1	
開志専門職大	1	
名古屋学芸大	2	
小計	275	38

(4) 国公立短期大学

学校名	R2年度	
	現役	過卒
岩手県大宮古短	1	(1)
岩手県大盛岡短	1	(1)
山形県米沢女短	1	
大月短	2	

小計	5	2
----	---	---

(5) 私立短期大学

学校名	R2年度	
	現役	過卒
仙台青葉学院短	1	
小計	1	0

(6) 文部科学省所管外

学校名	R2年度	
	現役	過卒
職業能開大	1	
岩手産業技術短	2	
小計	3	0

(7) その他

学校名	R2年度	
	現役	過卒
専門・各種学校	33	(2)
うち高看	18	
公務員	2	
小計	35	2

(8) 医学部医学科合格者数

学校名	R2年度	
	現役	過卒
医学部医学科	4	

※過卒合格者については学校に連絡があった者のみ

同窓会費納入状況

(令和3年2月15日現在)

期(卒業年)	残額(円)	期(卒業年)	残額(円)
31(昭和42年)		46(昭和57年)	360,000
32(昭和43年)		47(昭和58年)	完
33(昭和44年)		48(昭和59年)	完
34(昭和45年)		49(昭和60年)	360,000
35(昭和46年)		50(昭和61年)	360,000
36(昭和47年)		51(昭和62年)	完
37(昭和48年)		52(昭和63年)	450,000
38(昭和49年)		53(平成元年)	490,000
39(昭和50年)		54(平成2年)	150,000
40(昭和51年)		55(平成3年)	510,000
41(昭和52年)		56(平成4年)	250,000
42(昭和53年)	410,000	57(平成5年)	510,000
43(昭和54年)	完	58(平成6年)	160,000
44(昭和55年)		59(平成7年)	510,000
45(昭和56年)	340,000	60(平成8年)	510,000

※「卒業年」は、その年の3月卒を表します。(残額合計 5,370,000円)

同窓会費納入のお願い

桜雲同窓会は、同窓生の皆様に納めて頂いている会費と、在校生の入会金によって運営されており、少子化による生徒数減少が続くと、同窓会事業の運営にも支障が生じる恐れが考えられます。

今後の同窓会運営のために、各期理事を中心に、会費納入の仕組み、現状を周知して頂き、会費の納入に特段のご協力をお願いいたします。

完納した期や会費を納入していただいた期は、同期会開催の際に会費納入に協力いただき、欠席の方には代表幹事宛に送金をしていただく等、工夫をされています。

なお、今年度は**32期、41期、43期**

会費納入の仕組み

- ・【桜雲60期まで】卒業時に一人当たり、三千円を入会金として納入。(すべての期が完納)
- ・卒業後六年経過した時点より、各期年会費二万円を五十二年間納入。
- ・【桜雲61期以降】在学中に完納。(学年諸会費と一緒に納入)

58期の皆様より会費の納入があらまし、たことをご報告いたします。桜雲同窓会事務局

事務局だより

今年度は、桜雲同窓生(44期の川村校長先生が着任され創立九十周年に向けて本格的にスタートし、コロナ感染性対応に悩まされておりますが、周年事業としての環境整備や講演会を実施しました。来年度は記念式典と祝賀会(十月)、部活動では招待試合が計画されるなどしております。また、九十周年記念誌の発行に向けて編集作業も進んでおり令和四年には記念誌が発行できる予定であります。同窓生の皆様には九十周年事業へのご協力もお願いすることになります。お願いばかりでございますが、ご協力ください。

令和二年度
桜雲同窓会事務局◎は事務局長
夏谷 健一 教諭(42期公民)
阿部 雄至 教諭(43期理科)

～寄贈のご紹介～



○齊藤 毅憲氏(25期)
『Y専の歴史 横浜市立大学の源流』
齊藤毅憲著(春風社)
『横浜市立大学論叢 第71巻社会科学系別第3号』
横浜市立大学学術研究会

最新 2019桜雲同窓会員名簿

令和元年11月1日発刊 [価格] 8,000円(送料込み)

保存版

創立80周年記念誌「桜雲臺八十年」

平成24年3月1日発刊 [価格] 3,000円(送料込み)

お申込み

[桜雲同窓会事務局]
花巻北高等学校内
TEL.0198-23-4134

[業務委託先]
(株)菊忠印刷
TEL.0198-42-2511

創立90周年記念誌

2022(令和4)年2月発刊

同窓会員皆様の購入申込を
よろしくお願いたします。

- ◎切田 壮教諭(52期英語)
- 齋藤 利崇教諭(54期体育)
- 高橋 和子教諭(58期国語)
- 小田島 智教諭(59期英語)
- 藤枝 覚教諭(60期体育)
- 多田 昌弘教諭(64期英語)
- 小原 尚教諭(76期国語)

編集後記

昨年度の編集後記を書いた一月下旬には一年後こんな社会になっているとは思っていませんでした。昨年は我々世代にとって、選歴となる区切りの年。高校同期会を計画していましたが、残念ながらコロナ禍によって延期となり、開催見込みすら立っていないのが現状です。

現役生たちにとっても、臨時休校や高総体、高校野球の大会が中止となって辛い日々だったと思いますが、OBである校長先生はじめ、先生方のご尽力により、野球部・文化部への壮行会を花巻球場を借り切って行ったことは全国ニュースにも取り上げられ、母校の名前を大いに高めていただきました。禍転じて福となす。秋にはテニス部や弓道部などの素晴らしい結果を見ることもできましたし、新方式の共通テストも良い成績が残せたと聞いています。逆境にこそ花巻北高の真価が問われます。この一年間の母校の取り組みに大きな拍手を送りたいと思います。

今後どういう社会がやってくるかわかりませんが、変化に対応できるものが生き残るといのが進化論。同窓会としてもオンラインを使ったりしながら絆を深めていけたらいいかなと思います。今年が創立90周年の年。100年に向けて、なんとかバトンを繋いでいけたらなと思ひます。

「桜雲臺」編集長 北山公路(43期)

桜雲同窓会 定期総会

令和3年8月7日(土)
午後2時

ホテルグランシェール花巻